

# 1次独立・1次従属

樋口さぶろお

龍谷大学工学部数理情報学科

線形代数☆演習 II L03(2016-09-30 Fri)

最終更新: Time-stamp: "2016-09-30 Fri 11:51 JST hig"

## 今日の目標

- 三宅線形 (§4.1) 三宅線形 (§4.2)
- 部分空間が  $W = \{\phi(t) | t \text{ の条件} \}$  の形のときに、部分空間である、ない証明が書ける
- 列ベクトルの組が、1次独立か1次従属か判定できる



<http://hig3.net>

## ここまで来たよ

- 1 ベクトル空間・部分空間
  - 部分集合のもうひとつの定義方法
  - 関数のベクトル空間
- 2 1次独立・1次従属
  - 定義
  - 問題

## 部分集合のもうひとつの定義方法

外延的定義  $\leftrightarrow$  内包的定義

集合位相 (2 年)

整数の集合の例

$$\begin{aligned} W &= \{t^2 \mid t \text{ は } 0 \text{ 以上 } 5 \text{ 以下の整数} \} \\ &= \\ &= \{n \mid n \text{ は, } t \text{ は } 0 \text{ 以上 } 5 \text{ 以下の整数で } n = t^2 \text{ と書ける} \} \end{aligned}$$

次の書き方も同じこと.

「 $x$  を 0 以上 5 以下の整数とするとき,  $x^2$  からなる集合を  $W$  とする」

### 部分集合のもうひとつの定義方法

$\{\sin \frac{1}{2}\pi t \mid t \in \mathbb{Z}\}$  の元を具体的に書こう.  $\mathbb{Z}$  は整数全体.

## もうひとつの方法で定義された集合に $u$ が属するか？

$W = \{\phi(t) | t \text{ の条件}\}$ : 上のように定義された集合.

$u \in W$  を言うには?

$u \notin W$  を言うには?

## ベクトルの例

$V = \mathbb{R}^3$ . その部分集合  $W_i$ .

例 1

$$\begin{aligned}W_1 &= \left\{ t \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^2 \mid t \in \mathbb{R} \right\} \\ &= \left\{ \mathbf{x} \in \mathbb{R}^2 \mid \text{ある } t \in \mathbb{R} \text{ で } \mathbf{x} = t \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} \text{ とかける} \right\} \\ &= \left\{ \mathbf{x} \in \mathbb{R}^2 \mid x_2 = 0 \right\}\end{aligned}$$

例 2

$$\begin{aligned}W_2 &= \left\{ s \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} + t \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^3 \mid s, t \in \mathbb{R} \right\} \\ &= \left\{ \mathbf{x} \in \mathbb{R}^3 \mid \text{ある } s, t \in \mathbb{R} \text{ で } \mathbf{x} = s \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} + t \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix} \text{ とかける} \right\} \\ &= \end{aligned}$$

例 3

$$W_3 = \left\{ t \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^2 \mid t \in \mathbb{R} \right\}$$

## $W_2$ が部分空間である証明

(ぶ1)

$s = t = 0$  とすると,  $s \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} + t \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} = \mathbf{0}$  より,  $\mathbf{0} \in W_2$ .

(ぶ2)

任意の  $\mathbf{x}, \mathbf{y} \in W_2$  に対して, ある  $s_1, t_1, s_2, t_2 \in \mathbb{R}$  で,

$$\mathbf{x} = s_1 \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} + t_1 \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad \mathbf{y} = s_2 \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} + t_2 \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$$

とかける.

$\mathbf{x} + \mathbf{y} = (s_1 + s_2) \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} + (t_1 + t_2) \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$  なので,  $\mathbf{x} + \mathbf{y} \in W_2$ .

(ぶ3)

任意の  $\mathbf{x} \in W_2$  に対して, ある  $s, t \in \mathbb{R}$  で,  $\mathbf{x} = s \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} + t \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$  とかける.

任意の  $c \in \mathbb{R}$  に対して,  $c\mathbf{x} = (cs) \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} + (ct) \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$  なので,  $c\mathbf{x} \in W_2$ .

(ぶ1), (ぶ2), (ぶ3) が成り立つので,  $W_2$  は部分空間.

## $W_3$ が部分空間でない証明

背理法による.

$W_3$  が部分空間であると仮定する (背理法の仮定)

(ぶ1) より  $\mathbf{0} \in W_3$ .

よって, ある  $t \in \mathbb{R}$  があって,

$$\begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix} = t \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

この  $t$  についての1次方程式は解を持たない (第2成分をみると楽). 矛盾.  
よって,  $W_3$  は部分空間ではない.

### 背理法

$A$  でないことを言いたいとき,  $A$  であることを仮定して (背理法の仮定) 矛盾を導けばいい.

## L03-Q1

## Quiz(部分空間)

ベクトル空間  $V = \mathbb{R}^3$  の次の部分集合  $W$  が部分空間であるかどうか調べよう.

$$\textcircled{1} W_1 = \left\{ s \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^3 \mid s \in \mathbb{R} \right\}$$

$$\textcircled{2} W_2 = \left\{ s \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} + t \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^3 \mid s, t \in \mathbb{R} \right\}$$

$$\textcircled{3} W_3 = \left\{ s \begin{pmatrix} s \\ t \\ 0 \end{pmatrix} \in \mathbb{R}^3 \mid s, t \in \mathbb{R}, t \leq 1 \right\}$$



## ここまで来たよ

- 1 ベクトル空間・部分空間
  - 部分集合のもうひとつの定義方法
  - 関数のベクトル空間
  
- 2 1次独立・1次従属
  - 定義
  - 問題

## 関数のベクトル空間の例

- $\mathbb{R}[x]_n$  三宅線形 (p.64(3))
- $C(a, b)$  三宅線形 (p.64(4))
- $C^\infty(-\infty, +\infty)$  実数全体で任意回微分可能な関数全体

$\exp(x), \sin(x), x^2, x^3 + 3x + 1 \in C^\infty(-\infty, +\infty)$ .

実は,  $\mathbb{R}[x]_n$  は  $C^\infty(-\infty, +\infty)$  の部分空間.

## L03-Q2

## Quiz(関数のベクトル空間の部分空間)

ベクトル空間  $V = C^\infty(-\infty, +\infty)$  (実軸上で任意回微分可能な関数全体) を考える. 次の部分集合は部分空間かどうか考えよう.

- ①  $W_1 = \{f \in C^\infty(-\infty, +\infty) \mid \text{任意の } x \text{ に対して } f''(x) + 4f(x) = 0\}$
- ②  $W_2 = \{f \in C^\infty(-\infty, +\infty) \mid \text{任意の } x \text{ に対して } f'(x) + 4x = 0\}$
- ③  $W_3 = \{f \in C^\infty(-\infty, +\infty) \mid f \text{ は偶関数}\}$

## L03-Q3

## Quiz(関数のベクトル空間の部分空間)

ベクトル空間  $V = C^\infty(-\infty, +\infty)$  (実軸上で任意回微分可能な関数全体) を考える. 次の部分集合は部分空間かどうか考えよう.

- ①  $W_2 = \{A \cos(2x) + B \sin(2x) \in C^\infty(-\infty, +\infty) \mid A, B \in \mathbb{R}\}$
- ②  $W_1 = \{A \sin(2x + \theta) \in C^\infty(-\infty, +\infty) \mid A, \theta \in \mathbb{R}\}$
- ③  $W_3 = \{Ae^{-2x} + Be^{-5x} + 5 \cos(2x) \in C^\infty(-\infty, +\infty) \mid A, B \in \mathbb{R}\}$

## ここまで来たよ

- 1 ベクトル空間・部分空間
  - 部分集合のもうひとつの定義方法
  - 関数のベクトル空間
- 2 1 次独立・1 次従属
  - 定義
  - 問題

## 1 次独立・1 次従属 三宅線形 (4.2)

1 次ナントカ=線形ナントカ 2 次元 線形代数及び演習 I (§3.7),  $n$  次元 線形代数及び演習 I (§4.4).

1 次=線形=linear.

線形代数=linear algebra 線形代数及び演習 I()

### (定義) 1 次独立

$\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n$  が自明でない 1 次関係を持たない.

自明

## 1 次結合の記法

三宅線形 (p.71)

$V$ : 任意のベクトル空間

$\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n \in V$ : ベクトルの  $n$  個組

$A$ :  $m \times n$  行列

に対して,

$$(\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n)A = (a_{11}\mathbf{u}_1 + \dots + a_{m1}\mathbf{u}_m, \dots, a_{m1}\mathbf{u}_1 + \dots + a_{mn}\mathbf{u}_m)$$

$\mathbf{u}_i$  が  $k$  次元列ベクトルなら見やすい. 行列の計算そのもの.

## 三宅線形 (定理 4.2.4)

$V$  を任意のベクトル空間とする.

$\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n \in V$  が 1 次独立なベクトルで,  $A$  が  $m \times n$  行列のとき,

$$(\mathbf{u}_1, \mathbf{u}_2, \dots, \mathbf{u}_n)A = (\mathbf{0}, \mathbf{0}, \dots, \mathbf{0})$$

ならば  $A = O$ .



## ここまで来たよ

- 1 ベクトル空間・部分空間
  - 部分集合のもうひとつの定義方法
  - 関数のベクトル空間
- 2 1 次独立・1 次従属
  - 定義
  - 問題

L03-Q4

三宅線形 (問題 4.2 1(1)-(6)) .

*Hint.* 三宅線形 (例題 4.2.1) , 線形代数及び演習 I(4.4) を参考にしよう.

L03-Q5

三宅線形 (問題 4.2 2)

三宅線形 (問題 4.2 3)

## 連絡

- 配布資料は 1-503 向かい掲示板前の引出, <http://hig3.net> で再配布しています.
- 樋口オフィスアワー木 6 金昼 (1-502), Math ラウンジ月-木昼 (1-614)
- 金 17:00-水 13:35 に予習復習問題= Trial 予想問題 をやろう.  
<http://hig3.net> → <https://learn.math.ryukoku.ac.jp/>
- 次回の trial 出題計画



- 次回の演習は 三宅線形 (4.2), 講義では 三宅線形 (4.2,4.3)